◆効果の見える砂防事業

「復興された山村の暮らし」
－徳島県那賀町白石地区－

徳島県砂防課長　森（もり）　英俊（ひでとし）

○事業概要

平成16年8月の台風10号の影響により，那賀町白石地区では集落の中央を流れるフロン谷において土石流が発生し家屋全壊5戸，半壊4戸等の甚大な被害を受け，34世帯120人が仮設住宅等への避難を余儀無くされました。

土石流発生源上流には、変動中の地すべり性地塊（不安定土塊）が残されており、今後の異常気象次第では、この不安定土塊が土石流化し、下方集落にさらなる被害をもたらす可能性があるため平成16年度に災害関連緊急砂防事　業、平成17～19年度には砂防激甚災害対策特別緊急事業により不安定土塊の排土工や斜面対策を行ってきました。

また、避難の必要性の有無、那賀町が執る警戒避難体制及び徳島県が行う土砂災害対策について助言をいただくため、「白石地区土砂災害対策検討委員会」を設置し、現状及び対策工の進捗に合わせて安全性の検証を重ねてきました。

工事の進捗状況は、平成18年8月末に避難勧告解除までの応急対策が完了し、平成19年度末には恒久対策工事が概ね完了します。

現在白石地区では仮設住宅に緊急避難していた住民が住み慣れた集落に戻り、被災前の穏やかな様子を取り戻しつつあります。また、地域住民は、自衛意識及び隣保協同の精神向上により、この災害以降に自主防災組織が結成され、地域が一体となり防災体制の確立に努めています。

本県においては、今世紀前半にも東南海・南海地震の発生が懸念されており、これまでにもまして防災対策に取り組んでいかなければなりません。ハード対策のみならずソフト対策を両立させ、万が一の災害に備え地域住民の方々と連携し、地域防災力の向上に努めていきたいと思います。

○施工箇所
　徳島県那賀郡那賀町白石
○施工期間
　平成16年度～平成19年度
○施工内容
　法面工、アンカー工、法枠工

【集落被災状況】

【集落復旧状況】

◆　砂防事業の重要性と更なる推進を

那賀町長　坂口博文（さかぐち　ひろふみ）

合併を間近に控えた平成16年8月の台風10号は、旧上那賀町、旧木沢村に多大な被害をもたらしました。特に、大用知地区、阿津江地区、白石地区では、土石流により集落の中心部を削り落としたような状況であり、自然の猛威を見せつけたものでありました。

平成17年3月に丹生谷地域と呼ばれる那賀川の上流域の5か町村が合併して、総面積695km²の那賀町が誕生しました。地域の北西部には四国山地、南部には海部山脈などを配しており、標高1，000m以上の山々に囲まれ、地域の9割以上が森林の中山間地域であります。

白石地区では家屋流出等の被害はありましたが、集落全体で声を掛け合って市宇公民館に避難していたことにより人的被害がなかったことが、不幸中の幸いでありました。

しかし、大用知地区では2名の尊い人命が奪われ、阿津江地区では、今なお崩壊の危険があります。

高齢化が進み限界集落と呼ばれるところだからこそ、日頃から集落全体で支え合う気持ちを大切にしてきた結果であったと思います。今なお台風の時には、不安をすべて払拭できたわけではありませんが、県や国においては、災害復旧事業のみでなく関連事業についても採択を頂き、総合的に地区の復旧にご尽力いただきましたことに、心よりお礼申し上げますと共に、今後においても危険地域の災害防除のために砂防事業の推進をしていただき災害に強い地域づくりに関係各位の更なるご尽力をお願い申し上げます。

【被災時の大用知】

【被災河川の復旧状況】

【山腹崩壊の被災状況】

【山腹復旧状況】